

予算特別委員会（全体会）

日時 令和5年3月27日（月） 午前10時～
場所 全員協議会室

1 委員長報告の確認

2 閉 議

- ・副委員長あいさつ
- ・副議長あいさつ

予算特別委員会委員長報告 <案> (R5.3.27)

予算特別委員会に付託されました
令和5年度 亀岡市 各会計予算について、
審査の経過概要と結果を報告いたします。

令和5年度予算は、市長から2月24日に提案され、議会としては、3月9日に予算特別委員会を設置し、3月14日から6日間にわたり、全体会及び分科会において審査を行ってまいりました。

各分科会において執行部に出席を求め、限られた財源の中で、市民が期待し、真に市民福祉を増進する、効果的かつ適切な予算となっているかを主眼に置き、慎重に審査を行いました。

論点を整理し、終始活発に質疑を行いながら、必要な現地視察の実施を含めて、議論を深めてまいりました。

そして、20日の全体会において、
「なお疑義^{ぎぎ}のあるもの」、「掘り下げ調査すべきもの」、
「議案の賛否に影響するもの」として抽出した
6項目について、市長に考え方等を^{ただ}質しました。

22日には、各分科会委員長から、審査結果の報告を受け、討論を経て、全体会として各議案の採決を行ったところであります。

これより、審査の結果について報告いたします。

まず、**第1号議案、一般会計予算**は、健全な財政運営を維持しつつ、「主役は市民一人ひとり」のまちづくりを進めていくための予算として、対前年度比**2.2%**の増額、**391億4,400万円**の予算が編成されたものであります。

歳入面では、ウィズコロナのもと、経済活動への制約が徐々に緩和される中、景気は緩やかに持ち直すと見込まれるため、市税全体として、対前年度比**2億4,200万円**増の**101億7,700万円**となっています。

地方交付税においては、国の地方財政計画を考慮し、交付額ベースで対前年度同額を計上、じょうよぜい譲与税や交付金の増収、さらには、実績に基づきふるさと力向上寄附金を**30億円**に引上げ、

また、それぞれの事業における特定財源の確保など、
できる限りの収入確保に努められています。

歳出面では、本市の目指す都市像
「人と時代に選ばれる リーディングシティ亀岡」
の実現に向けて、
「第5次亀岡市総合計画の着実な推進」、
「健全な財政運営の推進」、「子どもファースト事業の推進」
を予算編成の基本方針とし、
5つの重点事業である
「子育てしたい、住み続けたいまちへ」
「スポーツ、歴史・文化、観光の魅力で産業が輝くまちへ」
「世界に誇れる環境先進都市へ」
「だれもが安心して暮らせる防災・減災、
セーフコミュニティ、多文化共生のまちへ」
「次代をリードする新産業を創出するまちへ」を中心に、
コロナ禍で顕在化した新たな課題、環境の変化や、
多様化する市民ニーズに的確に対応するとともに、
市民福祉の向上とさらなるまちの魅力増進に向け、
市民にとって真に重要かつ優先度の高い事業について、
予算が計上されています。

分科会審査を進める中で取りまとめた、市長質疑
6項目の内容は、

1. 広報経費、ローカルプレス発行業務委託料において、事業の目的と効果をどのように考えているのかについて
2. SDGs 推進経費において、市民への啓発と市民参画のしやすい今後の展開をどのように考えているのかについて
3. 生涯学習推進経費、ガレリアかめおか関連予算において、ガレリアかめおかの施設運営と今後の在り方をどのように考えているのかについて
4. 重層的支援体制整備事業経費において、多くの所管にまたがる事業であるが、組織・機構や財政的な整備はできるのかについて
5. 家庭相談員等設置経費において、ヤングケアラー実態調査の結果は、根本的な問題解決に向け、どのように活用されるのかについて
6. 商工業振興対策経費、産学官連携事業補助金にかか^か係るオープンイノベーションセンター・亀岡において、今後どのように運営し、最終的な展望はあるのか。

また、サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業は、オープンイノベーションセンター・亀岡の各事業につながっていくのかについて であります。

これらについて一括答弁の^{のち}後、再質疑を行い、予算の提案者である市長と、十分な議論に努めたところであります。

そして、討論では、「今、市民の暮らしが大変な中で支援する予算だてを求めてきたが、そういったものが計上されず、それより優先度が低いものを予算化している」とした、反対討論があり、

一方で、「歳入確保に向けてしっかりと取り組まれ、歳出面では、ふるさと力向上基金をうまく使った新規施策の展開、環境先進都市の推進、子どもファースト宣言による取組を実施する予算が計上されている」

「第5次亀岡市総合計画の着実な推進のための予算が計上されており、本市がますます発展することに大いに期待する」

「安全・安心で良好な暮らしの確保、観光資源の魅力向上など、積極的な予算編成となっており、市民福祉の増進につながると評価する」

「市民の財産と生命を守るための積極的な予算編成であり、ふるさと納税を原資にふるさと力向上基金を活用し、市債の抑制も図られている」とした、賛成討論がありました。

討論の^{のち}後に採決を行い、採決の結果は、**賛成多数**をもって、原案可決すべきものと決定しました。

- なお、指摘要望事項として、
- 広報経費、ローカルプレス発行業務委託料について、シティプロモーションにつながるよう取り組まれるとともに、今後も進捗状況を適宜委員会に報告されたい。
 - 小学校費の学校建設事業費、育親学園通学路階段整備工事について、低学年への配慮をされたい。

- 図書館整備事業費、図書館中央館リニューアル工事費について、リニューアルに当たっては、施設長寿命化の観点を取り入れられたい。
- オープンイノベーションセンター・亀岡について、産学公の連携により、事業の目的である雇用の創出や企業誘致につながるよう取り組まれるとともに、今後も進捗状況を適宜委員会に報告されたい。

以上4点について、指摘要望するものであり、執行部におかれては、審査時の議論を含めて、しっかりと対応いただくよう求めるものであります。

次に、

第2号議案、国民健康保険事業特別会計予算は、
国民健康保険被保険者の疾病等しっぺいに関して必要な保険給付を行うための経費であり、療養給付費、高額療養費が主な内容であります。

別段異論なく、採決の結果は、
全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、

第3号議案、休日診療事業特別会計予算は、
休日急病者に対する診療事業を行う経費であり、
別段異論なく、採決の結果は、
全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、

第4号議案、介護保険事業特別会計予算は、
介護サービス給付事業及び介護予防事業を
行うための経費が主なものであり、
別段異論なく、採決の結果は、
全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、

第5号議案、後期高齢者医療事業特別会計予算は、
後期高齢者医療制度に伴う事業を行うための
後期高齢者医療広域連合納付金が主なものであり、
別段異論なく、採決の結果は、
全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、

第6号議案、土地取得事業特別会計予算は、

京都・亀岡保津川公園用地取得分のうち、

市道保津宇津根並河線の拡幅部分の買い戻しによる
売り払い収入を、一般会計に繰り出しするものであり、

別段異論なく、採決の結果は、

全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、

第7号議案、曾我部山林事業特別会計予算は、

山林等の管理に要する所要の予算計上であり、

別段異論なく、採決の結果は、

全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、

第8号議案、水道事業会計予算は、

市民生活と都市機能を支えるライフラインとして、安全でおいしい水の安定供給を行うため、

ろうきゅうかんたいしんか
老朽管耐震化工事や南丹市への水道用水供給事業などが主なものであります。

採決に先立ち、

「水道料金の引下げや減免等を求めている市民の声が多くある中で、議会に予算提案権がないことから、一般会計予算を差し戻して、改めて、水道事業会計予算にくりい繰入れるような予算を組まれたい」との反対討論がありました。

採決の結果は、**賛成多数**をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、

第9号議案、下水道事業会計予算は、
年谷浄化センター改築更新工事をはじめ、
同センターにおいて発生する消化ガスを
再生可能エネルギーとして、官民連携^{かんみん}により
発電事業に活用する取組や、
農業集落排水施設を公共下水道に施設統合するための
実施設計業務など、公共用水域の水質保全と
生活環境の改善を図るための事業が主なものであり、
別段異論なく、採決の結果は、
全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、

第10号議案、病院事業会計予算は、
市域に唯一の公立病院として、安定した医療を
提供するための医業費用が主な内容であり、
令和5年度には、病院経営の強化に総合的に取り組む
「経営強化プラン」策定が予定されるとともに、
令和5年4月には、新たに訪問看護ステーションを
開設し、今後、高齢化に伴い増加が予想される
在宅医療にも対応していくものであります。
別段異論なく、採決の結果は、
全員をもって原案可決すべきものと決定しました。

次に、

**第11号議案から第40号議案までの
亀岡財産区ほか29財産区特別会計予算は、
関係地域における自治振興のための助成金、
山林等の管理に要する財産管理経費等の
予算計上であり、別段異論なく、採決の結果は、
全30財産区特別会計いずれも、
全員をもって原案可決すべきものと決定しました。**

以上が、本委員会に付託された議案の審査経過であります。

最後に、執行機関におかれては、
誰一人取り残されることなく、あらゆる世代が
安全かつ安心して暮らせるよう、
常に市民目線に立ち、市民に寄り添った
事業の取捨選択^{しゅしやせんたく}とともに、
将来にわたって持続可能で、健全な行財政運営を
望むものであります。

第18期議員初めての予算審査を通して、
ウィズコロナのもと、社会・経済情勢の変化に
注視しながら、
二元代表制を担う議会の役割を果たすべく、
ふるさと亀岡の将来像をしっかりと見据え、
ひとえに、市民から負託された市民福祉の
一層の増進による、本市の限りない発展のために
議論を尽くしてまいりました。

今後においても、このことをしっかりと念頭に
置き、今期の議会活動に邁進^{まいしん}していくことを
改めて決意申し上げ、予算特別委員会の
審査結果の報告といたします。